

< 学部消息 >

昭和63年10月24日

理学部職員組合委員長

宮田元靖殿

理学部長

藤田宏

助手の“大学院手当”支給状況是正 に関する書簡

去る7月下旬に貴職員組合によって、「助手の大学院手当の支給が然るべく行なわれていない。その事態を早急に改善されたい」との指摘と要望を頂きました。この御指摘を契機として調査したところ、確かに理学部の相当な数の助手について大学院手当、正確には、大学院学生の指導補助担当の任用に伴う調整給の支給の仕方開始の遅れの問題があることが判明しました。すなわち、いくつかの専攻において、学位取得等の学歴条件や6ヶ月以上の在任期間といったフォーマルな任用の要件を満たす助手について新規の大学院指導補助担当のための選考・推薦が複数年に亘り実施されていないことが明らかになりました。

理学部の助手の学問的な水準の高さおよび理学部に於ける大学院の比重の大きさから考えて、このような事態が存在したことは理学部長／理学系委員長として誠に不本意であり、該当した助手の人達の不遇に対し深く遺憾の意を表する次第です。

おくれはせながら、これらの人達についてそれぞれの専攻からの推薦を得て後、急遽、指導補助担当に任用することを求める上申を総長宛に行い、可及的に速やかな発令を願う努力をしました。幸い各方面の御理解もあって、該当者のすべてについて現在既に発令が行なわれています。

理学部において、助手は、職務上教授・助教授を補佐する存在にとどまらず、理学の最も活動的な部分を担う進新の学者であり、理学の未来を託すべき後継者であると私は考えています。この見地からいっても、助手の大学院手当に関しての上記の事態は、理学部に於て起こってはならない筈

のものでした。それにもかかわらず、生じた原因には、制度の懇切さの不足や関係者の迂闊さがあったことも否めませんが、昭和58年度から大学院指導補助担当助手の定数の管理が理学系から大学本部に移され、それにもなって年度毎の新規任用予定数の照会を理学部大学院掛から各専攻に行なわないことになったという変化を、いくつかの専攻で充分認識しなかったことが主な要因になっています。

これらの諸点を改め再発を防止するために、理学部として、また、理学系として戒心すべきことを理学部教授会・理学系委員会で強く要望しましたが、具体的な制度の改善の処置についても理学系委員会に諮っているところです。

以上を報告しますとともに、事態の解決の発端となった御指摘ならびに対応について頂いた御忠告に対し謝意を表するものであります。

敬具

理学部職員組合委員長から理学部長への返書

理学部長

藤田宏殿

1988年11月15日

理学部職員組合委員長

宮田元靖

理学部職員組合は、本年7月、理学部助手の大学院手当の支給に関して、現に大学院学生の指導に当たっており、学歴・在任期間等支給の要件を十分に満たしておりながら、大学院手当の支給が大幅に遅れている例が少なからず存在することを指摘し、早急な事態の改善と、該当する助手の被った不利益に対する補助措置とを要求しましたが、その件に関して、10月24日付で理学部長から「助手の“大学院手当”支給状況是正に関する書簡」を受け取りました。

理学部職員組合は、

(1) 理学部長が、このような事態が生じたことに

に対し、遺憾の意を表明され、

(2) 理学部長をはじめとする理学部当局の方々が、事態の改善について努力され、

(a) 現在、該当者のすべてに対して大学院学生の指導補助担当任用の発令（大学院手当の支給）がおこなわれるにいたったこと、

(b) 特に手当支給遅延の著しかった者については一定の措置もなされたこと、

(3) 理学系委員会において具体的な手続が改善される予定であること、

に対し、理学部長をはじめとする理学部当局の方々の誠意と努力を評価するものです。

理学部長からの書簡にもありますように、今回の事態が生じた直接の原因は、昭和58年度から大学院指導補助担当助手の新規任用の推薦が各専攻に任されるようになったという手続き変更に対する対応の不徹底にあり、その意味では、関係する各専攻主任と理学系委員長の責任が大きいと言わざるをえませんが、理学部職員組合は、この問題のより根本的な原因は、助手の位置づけの低さにあると考えています。つまり、理学部長が書簡の中で述べておられるように、「理学部において、助手は、職務上教授・助教授を補佐する存在にとどまらず、理学部の最も活動的な部分を担う新進の学者であり、理学の未来を託すべき後継者である」にもかかわらず、実際には助手がそれに見合う扱いを受けているわけではなく、そのための制度的保証もきわめて貧弱である、という問題が根本に存在していると考えます。

また、助手の大学院手当の問題に限りませんが、今後同様の事態を発生させないという観点からいえば、たんに制度上の問題だけでなく、制度を支え、その運用を円滑かつ確実にするものとして、例えば、理学部職員組合が以前から要求している事務職員の研修や職員相互の日常的な情報交換なども、その重要性があらためて認識される必要があるものと考えます。

理学部職員組合は、今回の事態をひとつの教訓として、今後、各方面で、大学における助手の位

置づけ、助手の果たすべき役割とそれを支える制度的保証に関して、活発に議論がおこなわれるようになることを希望するとともに、理学部職員組合としても、必要に応じて積極的な問題提起をおこなっていく所存です。

上記のような手紙のやりとりがありました。学部長からの書簡はわたしの責任で書いたものがありますが、理学部職員組合との話し合いで合意を得たものです。

すべての助手の待遇が常に公正に取扱われ、その所属する教室によってアンバランスがあるべきでないことは、いまさらいうまでもありません。今回のことについて、大学事務局はじめ理学部事務局、理学部職員組合その他関係者の皆さんが好意ある理解を示されたことについて感謝しています。

理学部長 藤田 宏

教授会メモ

63年12月21日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
 (2) 人事異動等報告
 (3) 物品寄附の受入れについて
 (4) 教務委員会報告
 (5) 企画委員会報告
 (6) 理学院計画委員会報告
 (7) 総長選挙代議員の選出について
 (8) その他

平成元年1月18日(水) 定例教授会

理学部化学本館5階講堂

- 議題 (1) 前回議事録承認
 (2) 人事異動等報告
 (3) 人事委員会報告
 (4) 教務委員会報告
 (5) 東京大学理学部規則の一部改正について
 (6) 企画委員会報告
 (7) 理学院計画委員会報告
 (8) 理学部長候補者の選出について
 (9) その他

元年2月15日(水) 定例教授会

理学部化学本館5階講堂

- 議題 (1) 前回議事録承認
 (2) 人事異動等報告
 (3) 奨学寄附金の受入れについて
 (4) 学士入学について
 (5) 学部学生の転学科について
 (6) 学部学生の転学部(転出)について
 (7) 人事委員会報告
 (8) 会計委員会報告
 (9) 企画委員会報告
 (10) 理学院計画委員会報告
 (11) 評議員の選出について
 (12) 植物園長の選出について
 (13) 素粒子物理国際センター長の選出について
 (14) 中間子科学研究センター長の選出について
 (15) 遺伝子実験施設長の選出について
 (16) 企画委員会委員の選出について
 (17) 人事委員会委員及び会計委員会委員の半数改選について
 (18) その他

人事異動

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
人類	助教授	青木健一	63. 12. 1	昇任	国立遺伝学研究所助手から
化学	"	原口紘丞	"	"	名古屋大学教授へ
物理	講師	矢崎茂夫	63. 12. 16	"	助手から

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
植物	助手	佐藤和彦	63. 12. 1	配置換	教養学部助手から
"	"	茂木立志	"	採用	
天文研	"	半田利弘	"	"	
"	"	大橋正健	63. 12. 16	"	
"	"	中井直正	"	"	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
天文研	助手	関口真木	63. 12. 16	採用	
"	"	吉田春夫	"	"	
物理	"	桑田真	63. 12. 1	昇任	工学部講師へ
化学	"	酒井陽一	63. 11. 20	休職	平成元. 10. 23まで
"	"	葉袋佳孝	63. 12. 3	休職更新	63. 12. 17まで
"	"	葉袋佳孝	63. 12. 18	復職	
中間子	"	久野良孝	63. 11. 30	辞職	
素粒子	"	森俊則	64. 1. 1	採用	
"	"	川越清以	"	"	
人類	"	齊藤成也	平成元. 2. 1	"	

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
事務部	人事掛主任	小林一男	63. 12. 1	昇任	新聞研究所庶務掛長へ
"	事務官	植木祐輔	"	配置換	附属病院総務課から
中間子	"	永井明子	64. 1. 1	採用	
情報	技官	佐藤安紀	"	転任	文部省大臣官房人事課へ

外国人客員研究員

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
情報科学科	後藤教授	中華人民共和国	TEH Hang ^{Chuan} 丁 懷 東	雲南工学院・講師	元. 2. 15 ~ 2. 2. 14	62. 12月教授会 報告済の変更 変更前期間 63. 1 ~ 12. 2で承 されたもの
物理学科	上村教授	連合王国	KO David Yu kkei 高 David 育基	エクセター大学研 究員	元. 1. 15 ~ 2. 1. 14	
物理学科	大塚助教授	中華人民共和国	ZHOU Zhi Ning 周 治 寧	北京大学準教授	元. 2. 1 ~ 2. 2. 28	
情報科学科	後藤教授	シンガポール	HIOE Willy 丘 維 禮	シンガポール国立 大学シニヤ・チュ ータ	元. 3. 1 ~ 2. 2. 28	
情報科学科	後藤教授	シンガポール	HENG, Aik Koan	シンガポール国立 大学助教授	元. 2. 25 ~ 元. 6. 30	
物理学科	大塚助教授	中華人民共和国	LU Da-hai 盧 大 海	北京大学講師	63. 11. 1 ~ 元. 3. 31	63. 7月教授会 報告済の変更; 変更前期間 63. 9. 11 ~ 64. 3. 1で了 承されたもの
生物化学科	酒井教授	フランス	PUDLES Julio	パリ大学教授	元. 2. 1 ~ 元. 6. 30	63. 3月教授会 報告済の延長; 延長前期間 63. 3. 1 ~ 元. 1. 31で了 承されたもの

理学博士の学位取得者

〔昭和63年11月28日付（2名）〕

専攻	氏名	論文題目
論文博士	山崎裕文	高臨界磁界超伝導化合物 $PbMo_6S_8$ および Nb_3Sn の実用化に関する材料科学的 研究 — 超伝導線材製作のための基礎
論文博士	伊藤領介	重心系エネルギー52 GeV の電子・陽電子衝突における重い新クォークの探索

〔昭和63年12月19日付（5名）〕

論文博士	富永義人	車軸藻細胞における原形質流動の Ca^{2+} , K^+ , C_1 による調節
論文博士	綿野泰行	同形孢子シダ植物における種の生殖様式と遺伝的構造
論文博士	中川正樹	確率的相違度を導入した構造解析的オンライン手書き日本語文字認識の研究
物理学	秋葉康之	核子あたり 14.5 GeV/C の $O + A$ 反応におけるエネルギー生成の測定
論文博士	中原早生	証明とプログラム, プログラム抽出の自然な一手法

〔平成元年1月30日付（8名）〕

論文博士	光本茂記	室内実験による海陸風と斜面風に関する研究
論文博士	加藤辰巳	サワオトリギ群の分類学的研究
相関理化学	桜井力	スズ (IV) カルコゲナイドの光物性の研究
論文博士	中村貴義	導電性ラングミュアープロジェクト膜に関する研究
論文博士	安藤清	グラフと補グラフ
植物学	朴龍睦	海岸砂丘地におけるメヒシバとオヒシバの分布に関する生理生態学的研究
論文博士	青山隆	気相, 液相, 固相からの半導体結晶成長
論文博士	海津聡	多くの小さい穴の境界上に半線形境界条件を課されたポアソン方程式の解の漸近挙動

海外渡航者

（6月以上）

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
素粒子	助手	森俊則	スイス	元. 1. 18 ~ 3. 1. 17	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
化学	〃	中井俊一	アメリカ合衆国	元. 2. 27 ~ 3. 2. 26	地球化学の研究に従事するため
素粒子	〃	川越清以	スイス	64. 1. 6 ~ 2. 3. 31	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
数学	〃	戸瀬信之	フランス	元. 1. 27 ~ 元. 8. 31	パリ第13大学の超局所解析セミナーに参加及び超局所解析に関する共同研究実施のため

理学部長と理職の交渉

12月19日、1月13日、2月10日に理学部長と理学部職員組合（理職）の交渉が行われた。また、1月18日には技術系職員の組織化問題について理学部長との緊急懇談会があった。その主な内容は次のとおりである。

1. 技術系職員の組織化問題について

12月19日の交渉では、討論の不足を理由に、12月の教授会では技官の組織化をしないことを要求した。これに対し12月の教授会では経過報告だけで決定しない、12月26日に技術職員に対する説明会を開くと答えた。

1月13日の交渉では、理職の12月28日付の組織化案に対する反対声明に対し、1月中に案を本部に出さなければ一年延びる、小口委員会の案を大きく変えることはしない（小口案と心中する）、小口案でよければ1月18日の教授会に出す等と答え、理職に、1月18日までに小口案に同意するかどうか回答を迫った。1月18日の緊急懇談会では、5級昇格が従来どおり、内規については理職の案を尊重して検討を継続するという条件付きで本部に理学部案を出すことについて合意に達した。このあと、学部長は、理学部案と東大本部案が大きく食い違うようであれば組織化は撤回すると言明した。2月8日の庶務部長、人事課長の説明で理学部案には最終的に本部案の網がかかることが明確になり、2月10日の交渉では、理職が本部案と理学部案の大きな隔たりを問い、組織化の撤回を要求したのに対し、学部長は理学部の運用でなんとかなると答え、今後の努力の問題であり、撤回するほどの条件違反・障害出現は確認されていないと思うと述べた。さらに、理職は理学部の内規を組合との合意なしに本部に出さないように要求したのに対し、学部長は約束したことであるので相談すると述べた。

2. 理学院計画について

理職が経過説明を求めたのに対し、和田理学院計画委員長は、2月の教授会で中間素案の説明をし、教授会懇談会を経て3月の教授会で最終的に承認する。2月の教授会の後で中間素案の説明会を開いてもよい。そこで、職員等の意見を聞き素案に組み入れることが可能である等を述べた。概算要求については、文部省の研究教育の高度化のための調査費として次年度概算要求が認められていること、東大全体で調査書の概算要求をすることを明らかにした。事務組織については、教室全てをまとめて一つにする様なことは考えていな

い、現在の教室という単位は残ると述べた。

3. 教務職員の待遇改善について

教務職員の劣悪な待遇を訴え、28号俸以上の人の助手化などによる昇格と概算要求による教務職員全員の助手化への取り組みを要求した。事務長は概算要求は全員の助手化で出していると答えた。また、年金の算出が最後の年の5～7月の平均値に基づいており、今までの最後の半年の助手化では退職金は良くなっても、年金はかわらないことを指摘し、5月以前の助手化を要望した。学部長は助手のポストは本来の助手のための運用に支障がおこらないように考慮して、半年としていると述べた。

4. 事務系職員の昇格改善要求について

東職の「婦人事務職員の昇任・昇格について」および昇格についての要望書について理職が質問したのに対し、学部長は主旨は理解した、放置しておくのはよくない、理学部でもいずれば改善しなければならないと思っていると述べた。また、事務長は4・5級昇格についてはポストがあっても動かなければ影響がでると答えた。理職は4級昇格については教室の要請もあり、動かずに昇格できるよう工夫してほしいと要望した。また、理職が高位号俸者の昇格には移動が絶対が必要かと問うたのに対し、事務長は絶対とは言わないが、組織という枠があり、ふさがってれば、上に行けないということであると答えた。

5. 行（二）から行（一）への振り替えについて

事務長が組織化をからめて要求しているとして述べたのに対し、理職は本来行（一）とすべき人であり組織化以前からの問題で組織化を絡めるのはおかしいと反論した。事務長はこれを認め、4月以前にも振替ができるよう努力すると述べた。

6. 昇格問題について

理職は技術系職員の5・6級昇格、図書職員の5級昇格、行（二）職員の4級昇格について、名簿を提出し、昇格実現に向けて努力を要請した。

7. 奨励研究B申請書の入手方法について

今まで奨励研究Bの申請書は教室事務を通して理学部が一括して取り寄せていたのに、今年から、各人が取り寄せなくてはならなくなったことについて理由を問うたのに対し、学部長は期限がある事なので、すぐに調べると答えた。

編集後記

今年も理学部から15の方が停年あるいは定年を迎えて去っていかれる。4号は恒例のお別れの言葉と、送る言葉の特集である。年間4冊発行される広報の内で最も関心もたれ、広く読まれるのがこの4号である。

この4号をもって、私の広報編集担当の役目も終了する。広報委員は号館から1人ずつ出て、5年任期で、4年目に編集を担当するようになっている。この1年間をふり返ると、広報のことを考えない日は全くなかったといってよい。それほど気になるものであり、休む間がない。広報を発行するために私が実際に費した時間を合計すれば多分200時間以上になり、1日8時間労働に直すと1ヶ月以上になると思われる。参考までにいくつかの数字を紹介すれば、1年間で私が出した原稿依頼、校正依頼の書状の数は約400通、ゼロックスコピーの枚数は約900枚である。本年は20巻目で、1～4号の総頁数は140頁となり、写真や余白を除いた字数は約13.6万字、400字詰340枚に相当する。これを原稿、初稿、2稿と、少なくとも5回は目を通す。研究ニュースと学部消息を除いて、記事の総数は年間66。2号から始めた研究ニュースの総数は71となった。ちなみに印刷部数は2,250部である。

広報の存在意義についての意見を時々耳にすることがある。意義を認める人と、そうでない人がいて、それぞれにもっともな面がある。1年間広報の編集を担当してみようことは、意義を求めて発行していけば、それなりの効果の現われてくるような感触をもつことである。広報を生かすも、殺すも、作り方、使い方次第のような気がする。今後は1読者として広報を見守っていききたい。

編集：

高橋正征(植物)	内線	4474
佐藤勝彦(物理)		4207
横山茂之(生化)		4392
内藤周式(分光セ)		4600
田賀井篤平(鉱物)		4544